



東京文化発信  
プロジェクト



TOKYO ART  
RESEARCH LAB



TOKYO ART  
RESEARCH LAB

# TOKYO ART RESEARCH LAB

# Tokyo Art Research Lab

「アートプロジェクト」を研究するプロジェクト始動！

2010年、東京アートポイント計画は、アートプロジェクトの新しい基準、価値の方向を見出すため「Tokyo Art Research Lab」を立ち上げる。

国内各所で現存する事例を掘り下げて検証する。未検証の現場を分析する。このことによって、生活圏のなかでアートプロジェクトを実施していくために必要な「知」と「スキル」の確立を目指していく。

まちなかで様々なアートプロジェクトが実施されつつある昨今、東京という場所にこのような「知」のプラットフォームを確立することは重要な活動といえるだろう。単にアートを地域に持ち込むのではなく、その場所で日常生活を営む人々とともに、その生活圏のなかでプロジェクトを行っていく。そこにはありとあらゆる問題や可能性があらわれてくる。リサーチ行為によってその問題や可能性を抽出し、それらを分析することにより、アートプロジェクトを持続可能にするシステムを構築する。またその意義を言説化していくというプロセスを通して、地域と人をつなげていくアート活動を活性化させるための環境基盤を整備し、またそれを担う人材を育成していくのが「Tokyo Art Research Lab」の試みである。

アートプロジェクトを創出し、維持し、展開するための5つのフレーム

①「つくる」②「支える」③「評価する」④「伝える」⑤「記録する」

新たな可能性や課題を発見し、創造的なアイデアによって斬新なアートプロジェクトを創造すること。そこで創出された活動・プロジェクトに安定的な運営基盤を与え、持続的・継続的な展開を可能にすること。広く市民へとアートプロジェクトを伝え、その意義や価値を評価していくこと。また、それらの活動・プロジェクトを記録し、今後の新たな創造のためにアイデアを蓄積し、その情報を広く提供していく。

これらの全ての行為は独立して存在するものではなく、それぞれが絡み合い複合的に展開することで、層の厚い文化創造の基盤を形成していく。

「Tokyo Art Research Lab」では、5つの新しい知とスキルを創出する要素を統合し、プロジェクト化することにより、リサーチプロジェクト活動にうねりを作


06 創りだす手の思想と実践へ向けて  
港千尋

11 受講への手引き

12 ○123

アートプロジェクトの0123  
小川希

14   
プロジェクト運営 ぐるっと360度  
帆足亜紀

16   
【「見巧者」になるために】  
批評家・レビュー者養成講座  
小崎哲哉

18 ?  
アートプロジェクトを評価するために  
評価の「なぜ?」を徹底解明  
若林朋子

20   
アート活動としてのアーカイブ  
NPO法人アート&ソサイエティ

22   
アートのお金と法律入門  
Arts and Law

24   
日本型アートプロジェクトの  
歴史と現在 1990-2010  
熊倉純子

26   
世界の現場から  
Talk & Cast

26   
トークシリーズ  
東京を考える、語る

27   
Tokyo Art School 2010  
NPO法人アーツイニシアティブ  
トウキョウ【AIT/エイト】

28 受講までの流れ

30 スケジュール

32 お問い合わせ・会場

33 応募申し込み書

り出していきたい。第一線で活躍するコーディネーター、次世代の文化の牽引者を志すリサーチ・アシスタント、それを追いかけるインターン、そしてゼミ・講座を受講するラボ生というメンバーによって構成されるリサーチャー集団は、各々が取り組むリサーチ活動の一つにまとめあげることにより新しい文化を創造するための道筋をつくっていくことを目指す。

「Tokyo Art Research Lab」の成果を通して、日本型アートプロジェクトを確立させ、地域のコミュニティ能力を高めていくような文化的手法を日々発信していく。閉塞感漂う現代社会において、消費と消耗の波に流されることなく、市民一人一人が文化の創造者となるような環境を作り出し、まちにアートが溢れるようになればという思いを込めて、「Tokyo Art Research Lab」を始動させる。この活動に賛同し参加する全ての人々の知を集結させることにより、新しいアートの定義を確立することになるだろう。

「Tokyo Art Research Lab」は明日の東京をつくる試みに参加する当事者としての志に燃える人々の集いの場としたい。「Tokyo Art Research Lab」に集積された知が無量大の広がりを見せることを期待している。

---

## 活動のスキーム

Tokyo Art Research Lab は、コーディネーター、リサーチ・アシスタント、インターン、ラボ生を主な構成メンバーとしてリサーチプロジェクトを展開していく。レクチャー、ワークショップ、フィールドワーク、研究会などを通し、ゲスト講師などによって持ち込まれる未検証の事例や現在進行中の事例を積極的に題材として取り上げ、最新の情報を検証・分析していく。各ゼミ・セミナー・講座は単体で存在するのではなく、各構成メンバー及びプログラムの連携活動によって、ラボ全体として、アート・文化をめぐる「知」のうねりをつくりだすことを目指す。

### コーディネーター

現代の日本におけるアートプロジェクト活動をつくり、支え、伝え、評価し、記録している専門家が、ラボの先導者として参加する。コーディネーターは、いままで現場で培ってきたノウハウをラボメンバーにただ伝授するのではなく、そのノウハウをベースに、ラボメンバーと共にリサーチ活動を通じて、より効果的な手法や新たな知識を発掘していく。

### リサーチ・アシスタント (RA)

美術系・文科系のポストドクターや大学院生など、それぞれの分野の深い知見を有する人々が、コーディネーターの片腕的存在として、各ゼミ・講座及びラボ全

体の運営に関わる。RA は、各ゼミ・講座において必要とされるリサーチをインターンと共に推進していく。また、ゼミ・講座で扱われた内容に関する研究ゼミを組織するなどして、ラボ生の理解を深めるためのフォローを行う。RAは定期的に RA同士で集う機会を設け (RAゼミ)、各ゼミ・講座の情報交換をすると共に、自主的にさまざまなトピックについてディスカッションやプレゼンテーションを行っていく。また、複数の講座が連携・協働して行う複合型授業・イベントの企画をし、ラボ全体のネットワーキングを組織するための活動にも携わっていく。

### インターン

コーディネーターやリサーチ・アシスタントと共に、ゼミや研究会のためのリサーチや準備をする役割を担う。インターンは、連続ゼミ・集中セミナーの選抜された受講者であるラボ生の中から有志で組織され、ラボ生として参加するよりも更に深く積極的にラボのリサーチ活動に関わっていく。

### ラボ生

Tokyo Art Research Lab プログラムの受講生であり、Tokyo Art Research Lab のリサーチ活動を支える重要なラボメンバーである。アートプロジェクト活動に興味があり、知識及びスキルを向上させたい人々がゼミ・セミナー・講座の受講者としてラボのリサーチ活動に参加する。アートプロジェクトの世界に新たに参加しようとする者ならではの、フレッシュで斬新なアイデアを提案してくれることを期待する。

### ゲスト講師

各ゼミ・セミナー・講座では、日本各地でアートプロジェクトを展開するディレクターやキュレーター、まちなかにおける市民参加型のアートプロジェクトを実践するアーティスト、アートプロジェクトの活動を伝える広報のプロ、アートプロジェクトやアートマネジメントに関する研究の専門家、アート活動を支援する弁護士や会計士、その他アート・文化について語る音楽家、建築家、文化人など、幅広いジャンルから多彩なゲストを招き実践的な話を聞く。様々なゲスト講師によるプレゼンテーションと、彼らと交えてのディスカッションをもとに、ラボチームは濃密で発展的なリサーチ活動を進めていく。

※このプロジェクトは、人々の生きる生活圏をフィールドにさまざまなアートプロジェクトを実施している「東京アートポイント計画」の一環として、東京都と東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団) によって主催されています。



# 創り出す手の思想と実践へ向けて

港千尋

創ることは、人間がその永い歴史のなかでたゆまず続けてきた、基本的行為のひとつです。地球という惑星のこれほど異なる環境に順応しながら生きてこられたのは、とりもなおさず人間が道具を創り、試行錯誤を重ねながら住居、衣服、食事といった生活全般を営むための、さまざまな技術を開発してきたからでした。そのどの過程で芸術が生まれたのかを正確につきとめることはできませんが、知られる限り最も古い洞窟絵画は、ホモ・サピエンスが登場した時期にまで遡ります。以来、人間の手はひとときも休むことなく、動き続けて、今日の世界を実現したのです。

創る手にいろいろな種類があるように、アートにもまた一言ではくくることができない多様性があります。アートはどの時代にも、それぞれの社会のありよう、利用することのできる物質と技術、個人や集団の想像力といった複数の要素が働いて生み出されてきました。どの要素も、時と場所によって変化するものである以上、アートが多様化する性質をもっていることは当然のことです。特に19世紀以降、科学技術が爆発的に発展し、都市化が世界中で進行するようになって、西欧を中心にしたアートの多様化は、その幅と速度とを飛躍的に増大してきました。さまざまな機械を積極的に利用する一方、伝統的な形式をつぎつぎに乗り越えるような挑戦をつづけてきた現代アートは、今日、その活動の場所をあらゆる空間へと拡張しています。それは現実の空間だけではなく、インターネットなどの仮想空間内ですら展開しているのであり、いまやアートは時間と空間の両面において、驚くべき発展をとげています。この点でアートは、その表現形式を大きく変えてはしながら、地平線を越えてゆくという原動力を失っていないと言えるでしょう。

アートプロジェクトと総称される活動が、多様化する今日のアートにおいて重要な位置を占めていることは、いまさら言うまでもありません。世界中で繰り広げられているアートプロジェクトは、それ自体が実に多様なものです。形態によってはワークショップと呼ばれ、あるいは広域

型インストールとも、単にフェスティバルと命名されることもある非常に異なる活動に、明確な定義を与えることは難しい。しかしながら、いくつかの共通点を見出すことは可能です。ここではごく簡単なイントロダクションとして、アートプロジェクトにどうしても欠かすことのできないいくつかの要素を拾い出しながら、それがわたしたちの生きる都市においてもつ意義について考察したいと思います。

## 場所との関わり

アートは場所を必要とします。プロジェクトがどのような形態をもつものであれ、ある期間、一定の場所において展開する以上、そのプロジェクトがその場所とどのような関係にあるのかを理解することは、ごく基本的な要件となります。自然のなかで開催されることもあれば、都市の密集地域で行われることもある。既存の建物を利用することもあれば、建物そのものを作ってゆくこともある。特定の物質を使いながら何かを構築する場合もあれば、歩行や観察といった、特定の場所の体験そのものを目的とする場合もあるでしょう。いずれにしても、プロジェクトがその場所で行われることの意味をつかむには、リサーチが必要になります。そしておそらく、このリサーチが、アートプロジェクトという活動の、最大の特徴のひとつではないかと思うのです。

アートはサイエンスと同じように、どのような結果を出すにしても、そのための研究と開発を必要とします。たとえば画家にとっては描こうとする対象物だけでなく、道具や技術の研究と開発も日常実践のひとつですが、アートプロジェクトにおけるリサーチは、その性格上、複数の人間が共同で行うことになります。プロジェクトが行われる場所はひとつとは限りません。複数の都市や場所を結んで同時進行的に行われることもあり、その場合はリサーチも複数行われることになります。

目的はアートであっても、プロジェクトのためのリサーチは社会学的、人類学的な性格をもっています。自然のなかで行われる場合には、地理学的な、あるいは地質学的な視点も必要になるでしょうし、場合によっては考古学者の意見を参考にする必要もでてくるでしょう。大切なことは、異なる専門や技能をもつ複数の人間が、それぞれの視点からアプローチしてゆくということです。参加者のあいだのディスカッションを通じて、相違点も明らかになるし、意見が合わないこともでてくる。そして、ある時点で共有することのできる、何かが見えてくる。つまりアートプロジェクトにおけるリサーチは、対象や場所を知ることを通じ、複数の視点のあいだに意識の共有を生み出すプロセスでもあるわけです。

言い換えれば、必要な知識をあらかじめ与えられるのではなく、自らの手で獲得してゆくということであり、プロジェクトが開催される以前の、このプロセスがもっとも重要なステップとなる場合が少なくありません。特にアーティストが参加する場合は、アーティストがもっている個性的な視点も、リサーチにとって大きな意味をもってきます。アーティストにとっても、未知の場所と人々と意識を共有するために、リサーチは非常に重要なプロセスとなります。

## 社会性と時間

実際に企画が立ち上がり運営されだすと、さまざまなことが起こります。多くの場合、アートプロジェクトのいちばん面白い部分は、部分的には予定され、部分的には不測であるしかない、開かれたインタラクションにあるでしょう。インタラクションと言っても、アートプロジェクトの場合は、単に作品と鑑賞者のあいだに起きる相互的な関わりだけではありません。さらに広い意味での、社会的なインタラクションを起こしてゆくのがアートプロジェクトの醍醐味でもあります。

ひとつは言うまでもなく経済的なものです。どのようにして予算を獲得するにせよ、お金というインタラクションは避けて通れません。特に21世紀に入ってからは「不安定要因」の代名詞にすらなっていて、それでも強い力をもっているお金。プロジェクトの成否を左右するものである以上、慎重かつ大胆な行動が必要とされる場合も少なくないでしょう。

もうひとつは法的なものです。グローバル化する今日の世界では、公共性の概念すらも改めて考え直さなければなりません。アートプロジェクトが何らかの意味での公共空間とかかわる以上、法的なインタラクションも避けることはできません。以上のふたつは、プロジェクトの規模にかかわらずある程度の専門的な知識やアドバイスを必要とすると思います。

三つめは、時間的なものです。プロジェクトが一日だけで終わる場合と1週間、1ヶ月、ときに3ヶ月間といった長期にわたる場合では、大きく異なる内容が想定されます。そのためのエネルギーと資本が変わってくるのは当然ですが、それだけでなく参加者の意識や感情も変わってくるでしょう。アートプロジェクトにおいて時間の要素は非常に大きいと思います。ここからプロジェクトのタイム・ペース・デザインすなわち、時間に依存するデザインとしての性格が出てきます。時間的インタラクションをどのように評価するかが、内容に影響を及ぼす場合もあります。

以上のように、社会性と時間性がアートを通じて、目に見えるかた

ちで立ち現れてくるとき、参加者のあいだに実践＝プラクシスの感覚が強く意識されるのだと思います。

## 身体性と記憶

プロジェクトでは、あらかじめ対象とされる参加者が決められている場合もあれば、不特定多数の参加者を募集する場合があります。どちらにおいても、人間がある場所へ身体を運び、何らかのアクションを起こさなければなりません。このときの身体は、個でありながらアートを通じて共同の動きをしてゆくという意味で、集団的身体でもあると言えるでしょう。

集団的身体をつくりだすのは、プロジェクトの実践全般にかかわることです。特に、広報は重要な役割を担っています。アートプロジェクトにおける広報は美術展の開催を知らせるのとはわけが違います。単なる告知ではなく、それを通じてどのような集団がどのようなアクションを起こしてゆくのが理解されることが求められる。まだ起きていないが、これから起きるであろうさまざまなアクションについて有効に伝えるには、説明文もイメージもかなりの工夫が必要になるでしょう。一般的な美術展が、「すでに起きたこと」としての作品を鑑賞者という集団へ差し出すことだとすれば、アートプロジェクトは「これから起こそうとすること」へ向けて、集団的な身体をつくってゆく営みであると言ってもいいかもしれません。

プロジェクトを実現する集団的身体の経験は、進行中にもまたそれが終わった後にも、周りの人に伝わってゆきます。直接関係した人だけでなく、当該の地域や、遠く離れた場所にも経験が共有されるためには、言葉が必要です。この点でプロジェクトの広報は、プロジェクトの記録と切り離せない関係にあると言えるでしょう。ブログやツイッターなどによるリアルタイムな経験の共有が、プロジェクトの機動力を高めていることは注目すべきですが、それだけではなく、一定の距離を置いて眺めた冷静な評価もまた、記録としては大切なことであると思います。

アートプロジェクトの記録は、それが行われた場所の記憶と結びついて、蓄積されてゆくものであると思います。すぐれたプロジェクトは、事例として未来のプロジェクトにとって重要な参考となるし、ヴァリエーションとして別の場所で別の人々によって展開されてゆくこともあるでしょう。集団的なアクションの記憶は、このようにして異なる場所へ伝播しつつ、静かに共有されてゆく。複数の創る手は、ひとつの場所を開くことによって、未知の地平線を開いてゆくことにもつながっているのだと思います。

## 社会的創造者としてのリサーチャー

以上のようにアートプロジェクトを支える人と組織は、広い意味でのリサーチャーを担っています。ここでの「リサーチ」は、ふつう使われるような学術的な意味の研究を含みながらも、人と人との関わりや組織づくりにも重点を置いている点で、より広い社会性をもったリサーチャーと言えるでしょう。人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」が育成をめざす人材は、まさしくこのような社会的なリサーチャーにあります。アーティストも含め、アートプロジェクトに参加する成員はリサーチャーとして、人々の生活圏のなかにあって日常的には目に見えない、さまざまな事象を発見し、相互の関係を密にしながら、それを創造性へとつなげてゆくことが求められます。リサーチャーにとっては生活圏そのものが、創造性の源泉なのです。

わたしは、この点でアートプロジェクトとは、「社会的創造性」と呼ぶべき資質をもつ人材を必要としているのだと思います。こうした人材の育成が既存の公的教育のカリキュラムのなかでは扱われてこなかったことは、ジャンルや枠によって細分化されたアートの歴史を顧みれば、むしろ当然のことでした。しかしかつてアルビン・トフラーが『第三の波』で予見した、すべての人が潜在的な情報発信者になれるような時代が現実のものとなった今日、既存の枠組みを横断するようなタイプの「リサーチャー」は、世界的に広く求められてゆくと思われます。

「Tokyo Art Research Lab」の試みは、新たな創造性の時代を拓いてゆくための、第一歩といっても過言ではないでしょう。

港千尋 みなと ちひろ / 東京アートポイント計画 企画アドバイザー委員

1960年生まれ 写真家 著述家

1995年より多摩美術大学情報デザイン学科教授 オックスフォード大学客員研究員  
著書・作品集多数。記憶とイメージをテーマに、映像人類学等幅広い活動をつけている。近著に『書物の変』（せりか書房）『愛の小さな歴史』（インスク립ト）。最近の展覧会に『レヴィ=ストロースの庭』（Cスクエア 名古屋）『アジアの痕跡』（ANU ギャラリー キャンベラ）。釜山ビエンナーレなど国際展のキュレーションもを行い、2007年には第52回ベネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナーを務めた。



## 受講への手引き

### 講座の選び方

「Tokyo Art Research Lab」には、連続講座、集中合宿セミナー、公開講座という複数のタイプの講座があります。ご自身の興味・関心やキャリアプランに応じて、お好きな講座をお選びください。もちろん、複数組み合わせる受講も大歓迎です。

- 「何かプロジェクトをやってみたい!...けど、まず何から始めればよいのかわからない!...」という方  
→小川希ゼミ「アートプロジェクトの0123」でガッツリ準備体操!
- 「アートプロジェクトにはいろいろ関わってみたけど、もっとスムーズに効果的に進める方法はないの?」という方  
→帆足亜紀ゼミ「プロジェクト運営ぐるっと360度」でスキルアップ!
- 「アートを伝えるプロフェッショナルになりたい!」という方  
→小崎哲哉ゼミ「『見巧者』になるために」で伝えるプロを目指す!
- 「アートプロジェクトの記録の仕方ってどうあるべきなの?」とアーカイブのあり方に問題意識を持っている方、興味のある方  
→P + Archiveゼミ「アート活動としてのアーカイブ」に参加してアートプロジェクトのアーカイブを作る!
- 「アートプロジェクトを評価しろって言われるけど、どうすればいいの?」と日々、アートプロジェクトの評価について頭を悩ませている方  
→若林朋子ゼミ「アートプロジェクトを評価するために」で自分なりの評価手法を確立!
- 「経理や法律の知識を身につけて、アートプロジェクトの運営に活かしたい!」という方  
→Arts and Law 集中合宿セミナー「アートのお金と法律入門」で基礎を身につける!
- 「もっと広くアートプロジェクトや東京の可能性について考えてみたい」という方  
→公開講座「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990-2010」  
「Tokyo Art School 2010」  
「世界の現場から Talk&Cast」  
「トークシリーズ 東京を考える、語る」で様々なトピックを知る

### ゼミ／研究会／課題／発表

月1回の連続ゼミでは課題が出され、ラボ生は文献を読んだり、作品を鑑賞したり、アートプロジェクトの現場訪問をしたりすることなどが求められます。また各ゼミのコーディネーターやリサーチ・アシスタントによって研究会を行う場合があり、その際にはラボ生の参加が奨励されます。つまり、月1度のゼミは受講者に求められるリサーチ活動の「入り口」でしかなく、その前後の時間を利用してラボ生が行うさまざまな活動を通して、ラボ生自身がこのプログラムを充実させていく構造になっています。

Tokyo Art Research Lab の詳細・最新情報はウェブサイトにてご確認ください。

<http://www.bh-project.jp/artpoint/app/lab.html>

## アートプロジェクトの0123

オ イ ッ チ ニ ー サ ン

アートプロジェクトという長距離マラソンにいきなり挑戦するのは無謀です。スタートラインに立つ前にいろいろな箇所の準備運動をしっかりとっておかねばなりません。どこか一カ所でも怠ると走り出すことすらできませんから。

まず、アートプロジェクトなのだから、アートそれ自体の歴史を知らなければお話になりません。どのような流れや問題意識をへて、現在のアートが成り立っているのか。じっくりと学んで行きましょう。さあ、0123。

お次は、どんなアーティストが現在のプロジェクトシーンにおいて活躍しているのかに目を向けてみましょう。直接彼らから話を聞くのが近道かもしれません。さあ、0123。

プロジェクトを志すもの、文章力やデザイン力、そしてなによりセンスを鍛えておかねばなりません。アートプロジェクトは総合力で勝負なのです。これについては実践あるのみ。普段から練習をおこたってははいけません。さあ、0123。

ところで、自分のコースを走り出す前に、他のアートプロジェクトを見学して、学ぶことも沢山あるはず。そこから自分自身の走りをイメージすることだってできるかもしれません。さあ、0123。

もちろん、ただ走ればよいというわけではありません。プロジェクトの有効なコースを築くため、社会や人々との交渉も必要になります。コミュニケーション能力も磨いておきましょう。さあ、0123。

最後に、昔から長距離ランナーに孤独はつきものですが、アートプロジェクトも例外ではありません。ただしこのマラソン、一人では決して走りきることはできません。共に走る隣人の声に耳を傾ける姿勢を身につけましょう。状況は常に変化するのです。さあ、0123。

さて、ここまでくればあとはスタートの合図を待つだけ。その時に向け、まずはみんなでアートプロジェクトの0123!

小川希 おがわ のぞむ / 一般社団法人 TERATOTERA・Art Center Ongoing

2002年から2006年に亘り、東京や横浜の各所を舞台に若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会「Ongoing」を、年一回のペースで企画、開催。その独自の公募・互選システムにより形成した数百名にのぼる若手アーティストネットワークを基盤に、既存の価値にとらわれない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、2008年1月に東京・吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。現在、同施設の代表を務める。また、JR中央線高円寺から吉祥寺を舞台としたアートプロジェクト TERATOTERA (テラトテラ) のチーフディレクターとしても活躍する。



### 講座内容

本講座は、多彩なゲストや実例をもとに、単なるイベントとは異なる「アートプロジェクト」をはじめのために必要な基本を、一年を通じて学ぶゼミ形式のレクチャーです。面白いことをやってやろうという気概のある多くの方々に出会えることを楽しみにしています。

#### ● アートの歴史・アートの概念を学ぶ

現代の美術の潮流をジャンルにわけ、具体例をもとに学習していきます。「コンセプチュアルアートを知る」、「絵画からインスタレーションへ」、「映像表現とは何か」などをテーマとして取り上げる予定。

#### ● 文章力やデザイン力を身につける

アートを語ること、綴ること、デザインすることを実践方式で学んでいきます。実際に展覧会に足を運び、展示や作品の批評や広報活動にチャレンジしてもらいます。また、各ジャンルで実際に活躍するゲスト講師を招き個々の文章の評価およびレクチャーをしてもらいます。

#### ● 隣人と議論する

本講座はゼミ形式で行われ、毎回何らかのテーマに沿って、共に受講する参加者とディスカッションを重ねていきます。議論を重ねる中から、各受講者が、自分自身の思い描くアートプロジェクトのイメージを形成することを目指します。なお、本講座受講者の必須条件として、プロジェクトの大小は問いませんが、レクチャーの開講中、少なくとも一つ以上のアートプロジェクトに赴き、レポートしていただきます。

#### ● アーティストを知る

アートプロジェクトのシーンにおいて、現在進行形で活躍するアーティストをゲストに招き、彼らの作品や活動について直接話を聞いていきます。

#### ● アートプロジェクトを体験する

日本全国で開催されているアートプロジェクトに各参加者が自発的に赴き、その特徴や問題点などをレポートしてきてもらいます。それを基に受講者全員でディスカッションを予定。また実際にアートプロジェクトを行うディレクターの方々を招き、お話を伺います。

ゼミ日 2010年7月 - 2011年3月 木曜日 19:00 - 21:00

7/1, 7/15, 7/29, 8/5, 8/26, 9/2, 9/16, 9/30, 10/14, 10/28, 11/4, 11/18, 12/2, 12/16, 1/13, 1/27, 2/3, 2/17, 3/3, 3/10

定員 40名程度

受講料 社会人 20,000円 / 学生 10,000円 (全20回)

- 応募課題
1. あなたにとってのアートってなんですか? 自分自身の体験をふまえて綴って下さい。(800字 ~ 1000字程度)
  2. Tokyo Art Research Lab 連続ゼミに参加しようと思った理由と、受講後の抱負を記述してください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)

※応募・選考に関しては「受講までの流れ」p.28をご覧ください。





## プロジェクト運営 ぐるっと360度

アートプロジェクトとは、アートを社会の構成要素のひとつとして成立させることを目的とした取り組みです。そのため、アートプロジェクトに集まってきた人・モノ・時間・情報・お金という資源は、ファンドを運用するように効率よく活用し、アートの価値を最大限引き出すために使われなければなりません。なぜなら、アートの価値が大きくなるほど、「共有」、「協働」、「やりがい」、「多様性」、「自由」、「創造性」などの価値を訴えやすくなり、社会関係資本が強化され、社会の幅が広がるからです。

アートプロジェクトの現場には、この目的達成に必要なプロジェクトの運営方法を指南してくれる教科書がありません。たいていは、自分の経験とノウハウを現場に持ち込み、手探りで運営方法を学んでいきます。そこで2つの問題に直面します。ひとつには、本来アートそのものに使われるべき人のエネルギー・時間・お金という重要な資源が、運営そのものに費やされ、アートを圧迫してしまうこと。もうひとつには、コミュニケーション・ルールを確立しないままに進めてしまい、プロセスに関わる人が各自持ち込む経験やノウハウがプロジェクト運営上、貴重な資源として活用される前に、阻害要因になってしまうこと。これらの問題を回避するためには、プロジェクト運営について共通認識を持ち、共通言語を取り入れていくことが必要になってくるでしょう。

そこで、本講座では、「アートプロジェクト運営ガイドライン」を参照しながら、現場の運営方法を考えていきます。本ガイドラインは、会場設営や広報など現場の具体的な問題に対する解決方法を導き出すために作られた資料ですが、アートと社会をつなぐ方法を説明したものではありません。なぜなら、その部分については、自らの知恵を絞るしかないからです。運営方法を考えるにあたっては、現場を検証しながら、受講者が知恵を出し合えるよう、演習方式を取り入れます。

帆足亜紀 ほかし あき / アートコーディネーター

1994年、シティ大学(ロンドン)にて博物館・美術館運営修士号を取得。1997年より、フリーとして活動。国際交流基金のアジア地域関連美術事業(1997年～現在)やニッセイ基礎研究所のパブリックアートプロジェクト(2000～02年)のコーディネーター、および茨城県のアーティスト・イン・レジデンス事業アークスプロジェクト(2003～07年)のディレクターを務める。現在、国際交流基金のアジア大洋州13ヵ国から若手クリエイターを日本に招へいする事業にコーディネーターとして携わるほか、通訳・翻訳も手がける。



### 講座内容

本講座では、手順を考えることを通して、アートプロジェクトの正しい進め方を覚えるのではなく、誰のために、また、何のためにアートプロジェクトを仕掛けていくのかを検証し、現場に立ったときに360度ぐるっと見渡して状況を確認できるような視点を身につけることを目標としています。

#### ■ 演習1 (構成要素)

アートプロジェクトの基本的な構成要素を分析・把握します。

#### ■ 演習2 (目的・手段・運営方法)

アートプロジェクトの目的・手段・運営方法の関係性について検証します。

#### ■ 演習3 (人 その1)

アートプロジェクトの作り手(アーティスト、スタッフ、ボランティアなど)の役割を現場検証しながら確認します。

#### ■ 演習4 (人 その2)

アートプロジェクトの受け手(来場者、メディア関係者など)の役割を現場検証しながら確認します。

#### ■ 演習5 (情報 その1)

アートプロジェクトの目的の伝達方法について、TPOに合わせて検討します。

#### ■ 演習6 (情報 その2)

報告やアーカイブ化など情報の保存と蓄積について検討します。

#### ■ 演習7 (金)

お金の集め方と用途を検討しながら、アートプロジェクトとお金の関係を考えていきます。

#### ■ 演習8 (検証)

アートプロジェクトを継続・持続するために必要な基本的な要素を分析・把握します。

#### ■ 演習9 (検証)

アートプロジェクトの社会の中での役割について分析・把握します。

\*演習3以降は、ゲストを迎える場合と現場を視察する場合があります。

ゼミ日 2010年7月 - 2011年3月 水曜日 19:00 - 21:00

7/7, 8/25, 9/15, 10/6, 11/10, 12/8, 2/9, 3/9

定員 20名程度

受講料 社会人 10,000円 / 学生 5,000円 (全8回)

- 応募課題
1. 関心のあるアートプロジェクトについて、その理由をまとめてください。(関心のあるアートプロジェクトのちらし、WEBSITEの出力など基本情報を1枚添付してください)(400字程度)
  2. アートに関心を持つようになったきっかけをまとめてください。(120字程度)
  3. 得意分野やスキルなど自己PRを記載してください。(1行)
  4. Tokyo Art Research Lab 連続ゼミに参加しようと思った理由と、受講後の抱負を記述してください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)

\*応募・選考に関しては「受講までの流れ」p.28をご覧ください。

# 【「見巧者」になるために】

## 批評家・レビュワー養成講座

アート展、演劇・ダンス、映画、コンサートなどのカルチャーイベントは、「作る」「観る（聴く）」だけでは実は完結しない。展示・上演・上映などを観た（聴いた）者が、その良さを過不足なく「伝える」ことによって初めて、創作行為と観賞行為が未来に向かって継承されることになる。良い批評・良いレビューは、表現者へ次作を創作するためのヒントと刺激を与え、他の鑑賞者に「観よう（聴こう）」という意欲を生じさせるからだ。

ところが現代では、批評メディアが次々に消え、批評家やレビュワーも減り、したがって批評やレビューなどを目にする機会が著しく減少している。社会が抱える諸問題と文化芸術表現との関わりについて、思いを凝らす機会もあまりない。このままの状態が続けば、表現・創作行為はやせ衰え、観客や聴衆の数も先細りになり、さらには創作を行う表現者も誕生しなくなるかもしれない。

これまで芸術文化表現を志す者は、まずは「受け手＝観客・聴衆・読み手」であることから始め、人によっては「伝え手＝レビュワー」の時代を経て「作り手＝創作者」となり、歴史の正統の上に独創的な表現を打ち立ててきた。見巧者、すなわち優秀な「受け手・伝え手」はあらゆる文化芸術シーンを活性化し、いずれ本人がシーンの担い手となる可能性もある。文化・芸術の、そして我々が生きる社会の未来のために、こうした「受け手・伝え手」を育成することは喫緊の課題であるだろう。

本講座では、「伝える」ことの重要性を念頭に置きつつ、具体的・実践的に「観る（聴く）」ことと「書く」ことの技術を学ぶ。併せて「読む」ことも行い、批評家やレビュワーになるための基本的知識や感性も身に付ける。優秀なレビューや批評は、随時提携ウェブマガジンに掲載する。プロフェッショナルな書き手を目指す受講者を歓迎する。

小崎哲哉 おざき てつや

『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。『ART iT』ファウンダー。  
1955年東京生まれ。89年、カルチャー情報誌『03 TOKYO Calling』（新潮社）の副編集長として参画。94年に小崎哲哉事務所を設立し、CD-ROMブック『マルチメディア歌舞伎』、愛知万博テーマ普及誌『くくのち』、写真集『百年の愚行』などを企画編集制作する。99年、和英バイリンガルのカルチャーウェブマガジン『REALTOKYO』を、2003年にはアート雑誌『ART iT』を、07年には『REALKYOTO』を創刊。10年、アートを退社する。京都造形芸術大学客員教授。



### 講座内容

美術、舞台芸術などのレビューや批評を書く技術を、「（プロの批評を）読む」「（展覧会、上演、上映を）観る／聴く」「（実際に）書く」というプロセスを通じて、実践的に学び、身に付ける講座です。ときには全員で同一のイベントを鑑賞、合評します。優秀なレビューや批評は、提携ウェブマガジン『REALTOKYO』に掲載します。

#### 読む 1

先達の批評や社会を考察・分析する評論などを読んで、「批評とは何か」を思弁的に学びます。  
課題図書：スーザン・ソントグ『反解釈』など

#### 読む 2

同時代の批評をリアルタイムに読み、視点、発想、文体などから具体的なヒントを見出します。

#### 観る 1

「現代の古典」とも呼ぶべき名作を映像などで鑑賞し、批評執筆に必要な基礎知識を身に付けます。

#### 観る 2

同時代の美術展、演劇、ダンス、映画、コンサートなどを、能動的・批評的に鑑賞します。

#### 書く

批評・レビューを実際に書いてみます。  
展示・上演・上映作品を鑑賞した後に、創作者にインタビューを行うこともあります。

ゼミ日 2010年6月 - 2011年2月 水曜日 19:00 - 21:00

6/30, 7/21, 9/22, 10/20, 11/24, 12/22, 1/19, 2/23

定員 15名程度

受講料 社会人 15,000円 / 学生 7,500円 (全8回)

応募課題 1. アート、舞台、音楽、小説、映画などの作品・プロジェクトから、自由にテーマを設定し、それについて批評する文章を提出してください。(1200字～4000字程度)  
2. Tokyo Art Research Lab 連続ゼミに参加しようと思った理由と、受講後の抱負を記述してください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)

※応募・選考に関しては「受講までの流れ」p.28をご覧ください。

## アートプロジェクトを評価するために 評価の〈なぜ?〉を徹底解明

芸術は評価になじまないとは昔からよく言われてきたことですが、どうもそうは言っていられなくなってきました。なじまないなりに取り組まないと、社会からの信頼を得られず、プロジェクトの実施すら危うくなる心配も出てきました。自分ひとりで、自己資金ですべて完結する活動ならば、好きなようにやって終わったらやりっぱなしでも、迷惑さえかけなければ誰にも文句は言われません。しかし、公的資金や協賛金・助成金を得て実施したり、誰かとの協働や組織で動いたり、労働の対価が払われたりする場合、つまり「他者とのかわり」の中で事業をおこなう場合においては、事業目的を明確にし、明快に自己評価し、第三者からの質問に対してしっかりと説明責任を果たせることが、事業の実施や存続、予算獲得の大きな鍵となってきたからです(事業仕分け騒動は記憶に新しいところです)。

では、われわれはいったい何を評価するのでしょうか?評価が大事だということはわかっているけれど、いざ評価を実行すると、何から始めてよいのやら突然不安になります。いつ誰がやるの?基準は?指標は?どうやって測るの?どの程度やればいいのか?誰に報告するの?何に使うの?いったいアートは評価できるのか?!—不明なことだらけです。評価しないと不安なのに、評価したらこれでいいの?と不安です。

そこで本講座では、多くの方々にとって悩みの種である「評価」について、この機会に関連情報を丁寧に整理し、皆でそれを共有します。評価に関係する「なぜ?」を徹底的に解明し、最終的には、受講生ひとりひとりが自信をもって、「自ら実践してみたいと思う評価」のあり方を確立することを目標とします。

若林朋子 わかばやし ともこ / (社)企業メセナ協議会 シニア・プログラム・オフィサー

英国ウォーリック大学院文化政策・経営専攻終了。1999年より企業メセナ協議会勤務。企業が社会貢献としておこなう芸術文化支援活動の活性化と芸術文化の環境整備に取り組む。現在は研究、政策提言、セミナー、国際交流、メセナコーディネーター(トヨタ・アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」([www.nettam.jp](http://www.nettam.jp)))等に携わる。企業メセナ協議会は設立当初よりメセナやアートの評価研究に取り組み、各種セミナーやワークショップ、「メセナの評価手法のヒアリング調査」、定性評価手法「エピソード評価」の提案などをおこなっている([www.mecenat.or.jp](http://www.mecenat.or.jp))。



### 講座内容

さまざまな分野で評価を実践するゲスト講師のレクチャーを通じて、評価の基本的な枠組みについて学びます。プロジェクトにかかわる多様なステークホルダーの意見を客観的に考えるための「ロールプレイング・ディベート」も試みます。最終目標は、実践したいと思う評価のあり方について、受講生が自らの考えと手法を確立することです。

#### 第1回 オープニングレクチャー& SWOT分析ワークショップ

#### 第2回 助成財団の評価

助成金を出す側はどのような観点で評価をおこなっているのか。現場の実践と実情を学びます。

#### 第3回 企業メセナの評価

企業は社会貢献活動やメセナ活動をどのように評価しているのか。現場担当者の実践を学びます。

#### 第4回 行政の政策評価

政策評価制度の仕組みや関係法令、各種ガイドラインなど、行政の政策評価制度について学びます。

#### 第5回 アートプロジェクトの評価:

##### ピア・モニタリング編

関係者が相互に活動を検証しあう評価方法について実践例に学びます。

#### 第6回 アートプロジェクトの評価:

##### 継続・発展・振り返り編

長期にわたるアートプロジェクトの評価について実践例に学びます。

#### 第7回 ロールプレイング・ディベート

各受講生が、アートプロジェクトを取り巻く多様なステークホルダーの役になり、各々の立場から、企画の意義やアートと社会について議論します。

#### 第8回 プレゼンテーション& 講評

評価のあり方について自らの考えと手法を言語化し発表。仲間から講評・助言を得ることで、「使える評価」へと精度を高めます。

※プログラムは都合により順番の入れ替えや内容を変更する場合があります。招聘ゲストの詳細は追ってご案内します。

ゼミ日 2010年7月 - 2011年2月 火曜日 19:00 - 21:00

7/13, 8/3, 9/14, 10/12, 11/16, 12/14, 1/11, 2/15

定員 15名程度

受講料 社会人 10,000円 / 学生 5,000円(全8回)

- 応募課題
1. アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」に掲載されている「芸術文化助成入門」(全4回 <http://www.nettam.jp/learning/intro/funding/01/>)を読み、「評価」についての自分の考えを論じてください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)
  2. Tokyo Art Research Lab 連続ゼミに参加しようと思った理由と、受講後の抱負を記述してください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)

※応募・選考に関しては「受講までの流れ」p.28をご覧ください。



# アート活動としてのアーカイブ

都市や地域と結びついたアート活動が日本全国で活発に実践されている現在、美術館や美術専門施設内での活動と異なり、その活動資料や記録は散逸していく傾向にあります。こういったアート活動の資料を保存し、公開し、活用していくことは、単にその情報を蓄積するという役割だけではなく、現在進行形で変わりゆく状況そのものを支え、未来につなげていく文化環境を構築していく役割を担います。今日、アート・ドキュメンテーションは、日本のこのような文化の基盤を補うものとしてその重要性が目まぐるしく増しているといえるでしょう。

本講座では、日本や世界におけるアートプロジェクトやパブリックアートなど、社会とダイレクトに関わりをもつアート活動をアーカイブ化する手法について、この分野の専門家から具体的に学んでいきます。また、ケーススタディとして、現在リアルタイムに進んでいるアートプロジェクトのドキュメンテーションを受講者が実際に行なう機会を設け、その過程をとらえて、プロジェクトのプロセスをドキュメントしていく重要性やその知識を実践的に身につけていくことを目指します。 ※アート活動としてのアーカイブは、「P+Archive」の一環として開催されます。

## NPO法人アート&ソサイエティ研究センターが本年度行う「P+Archive」について

「地域・社会と関わるアート」に関心のある市民や学生、研究者が情報収集を行うことのできる、国内初のアーカイブ施設を創設するとともに、アートプロジェクトを記録・アーカイブ化する人材を育成することで、「地域・社会と関わるアート」に関するプラットフォームを創出することを目的とするプログラムです。以下の一連の活動を通して、地域・社会でのアート活動の記録・保存・公開の在り方について考えていきます。

①連続講座+研究会「アート活動としてのアーカイブ」②リスト化・収集プロジェクト（先行事例の調査、資料収集方法・運営方法の検討）③展示・公開プロジェクト（書棚の設計、資料の整理、ファイリング等、資料の整理作業）④コレクション・アクションプロジェクト（テンポラリーなアートプロジェクトの公開プレゼンテーション）⑤ドキュメント・プロジェクト（P+Archiveの活動内容の記録と発信）

※このプログラムは東京アートポイント計画×NPO法人アート&ソサイエティ研究センターで実施します。

## NPO法人アート&ソサイエティ研究センター

一般市民、芸術家、芸術文化活動実践者及び研究者に対して、都市や地域における芸術文化活動並びにパブリックアートの情報発信及び調査研究・実施活動に関する事業を行い、都市や地域の文化的発展と市民の文化環境の向上に寄与することを目的としている。多分野からユニークなゲストを招聘してインフォーマルなディスカッションを行なう定期レクチャーを毎月ペースで開催。国外・海外での都市や地域におけるアート活動を紹介する『Public Art Magazine』を定期発行など。



## 講座内容

都市や地域と結びついたアート活動を記録、集積、公開し、未来のアート活動を支える創造の場となるアーカイブ。それは生きた情報を常に発信し続ける新たな形のアーカイブです。連続ゼミでは、このようなアーカイブの社会的意義や活動の事例・次世代を射程に入れたアーカイブのあり方を検討し、収集、分類の奥深いノウハウまで下記のようなトピックをとりあげて、多彩なゲスト講師陣とともに詳細に学んでいきます。

### ①「プロセスとしてのアーカイブ」

現在リアルタイムで進んでいるアートプロジェクトのドキュメンテーションについて学ぶ。講師にアートプロジェクトをおこなってきたアーティストを迎え、一次資料を記録・保存していく意味について考える。受講者が実際にプロジェクトをドキュメントしていく機会を設け、リアルプロジェクトを記録・保存していく重要性やその知識、プロセスを身につけていく。

### ②「アーカイブ的思考 (archival mind)」について」

先駆的アーカイブを構築・研究している実践者から、アーカイブを設計する際に役立つ「考え方」を、いくつかの個別的なモデルの具体的な検証を通して学ぶ。制作の発展過程を解明しうる「制作プロセスのアーカイビング」問題を考える。また将来のアーカイブの課題等についても考察していく。

### ③「メディアとアーカイブ」

20世紀以降、写真、映画、ビデオ、デジタルテクノロジーなど、表現メディアが大きく広がる中で、アーカイブはどのように変化してきたのか。その歴史や変遷について学びながら、次世代を射程に入れたアーカイブのあり方、100年後から見える「アーカイブ」を考えてみる。作品が残りにくいサウンドアート、ビデオアート、パフォーマンス表現などのアーカイブ化についても学んでいく。

### ④「資料(コレクション)を募る方法：アートプロジェクト、アートNPO活動等」

芸術活動の団体や個人の活動資料をアーカイブ情報として捉え、収集、保存、公開の手法について検討する。期間が限定されているイベントのフライヤー・DM・ポスター等、自主的な活動を展開している芸術団体の活動を広報するために発行される資料情報をデータベース化していく手法について学んでいく。さらにCDやビデオDVD等のメディア資料の収集や保存についても取り上げていく。

### ⑤「生きた組織体としてのアーカイブ構築をめざして」

さまざまな文化資源の資料情報基盤としてのデジタルアーカイブ。アーカイブをデジタル化することによるデジタルコンテンツ全般の構築やその公開、権利や流通の問題などについても取り上げつつ、多様な記録資料の収集と保存についての具体的な方法・技術を横断的にとらえる視点を養う。同時にオープン・エンドなコミュニケーションにおけるプラットフォームとしてのアーカイブを考える。

ゼミ日 2010年7月ー11月 木曜日 19:00ー21:00

7/24, 8/19, 9/9, 10/7, 11/11

定員 15名程度

受講料 社会人 6,000円 / 学生 3,000円 (全5回)

応募課題 1. アーカイブに関する自身の関心事についてまとめてください。(600字程度)  
2. Tokyo Art Research Lab 連続ゼミに参加しようと思った理由と、受講後の抱負を記述してください。(A4用紙1枚程度。書式、字数は自由。)

※応募・選考に関しては「受講までの流れ」p.28をご覧ください。





## アートのお金と法律入門

Arts and Law の集中合宿セミナーは、プロを目指す人やプロとしての経験値を伸ばしたい人が、お金や法律についての知識やスキルを身につけるためのプログラムです。お金の集め方、使い方、法律、税金、海外へのアプローチ方法…? いざ活動をはじめるとわからないことばかり。そんな時は一人で悩むのではなく、会計や法律の専門家に聞くのが一番です。でも全く何もわからないと、何を聞けばよいのかもわからないですよ。合宿セミナーではそんなみなさんに、レクチャーやワークショップを通して、お金と法律の初心者に必要な情報を分かりやすく解説していきます。知識を学ぶ座学的な授業だけでなく、実際に手を動かすトレーニングも行うことによって、契約書の読み方、交渉の仕方、税金の払い方、請求書の出し方などを体験し、お金や法律の問題を「全くわからないもの」から「対応可能なもの」へと変えて行くお手伝いをします。専門家のサービスを効果的に利用する術を身につけることで、今後プロとして更に高いレベルを目指すきっかけになればと思います。

※アートのお金と法律入門は、「アート活動のためのキャリア支援プログラム」の一環として開催されます。

### Arts and Law が本年度行う「アート活動のためのキャリア支援プログラム」について

アートに関わるさまざまな活動を行う(あるいは、これから行おうとする)人々が、自らのキャリアを伸ばすことを支援するプログラムです。

①集中合宿セミナー「アートのお金と法律入門」法律や会計についての入門的な知識について学ぶための合宿形式のセミナーの実施 ②「オンライン・サポート」法律や会計などを含む専門的な視点から、アートに関わる人々による活動の実施や、彼らのキャリアアップにつながる情報をウェブ上で提供するオンラインによる支援 ③「専門家相談会」アートに関わる活動やキャリアアップを考える際に生じた疑問や問題に対して専門家による相談が受けられる場の提供 ④「ピア・メンタリング」アートに関わる活動を行う同程度のキャリアの人々が定期的に集まり、自分たちの実践やキャリアについて共有・議論しあう場の提供

以上のプログラムを展開することにより、作家・クリエイターが自由な表現活動を行うための社会的基盤の整備を行うとともに、アートに関わる活動を支えるための人材を育成していきます。

※このプログラムは東京アートポイント計画×Arts and Lawで実施します。

### Arts and Law (NPO 法人コミュニティデザイン協議会)

2004年に設立された Arts and Law は、美術や工芸、視覚デザインの作家やクリエイターを支える無償のインフラを提供する非営利活動団体です。メンバーは数名の弁護士を中心に、コーディネーター、コンサルタント、研究者などのプロボノ(専門家によるボランティアの社会活動)で構成されています。



### 集中合宿セミナー 1 お金と法律の基礎知識

1泊2日の集中講座で、アーティスト、クリエイター、アートプロジェクトスタッフに必要な法律やお金の知識をゼロから楽しく身に付けましょう。

トラブルを避けるばかりではなく、法律を味方につけて自由な活動ができるようになることを目指します。

日 時	2010年9月18日(土) - 19日(日) 1泊2日 (予定)	
1日目	午前	講義「表現活動と表現の自由」
	午後	現役アーティストによるゲストトーク「お金・仕事・法律」 交流会
2日目	午前	講義「著作権入門」
	午後	講義「お金と税金～入門編」 ワークショップ「お金と税金～基礎編」 解散
会 場	都内宿泊施設	
定 員	20名程度	
受 講 料	10,000円程度で実施予定	

### 集中合宿セミナー 2 やってみよう! 確定申告

源泉徴収票とレシート類持参の確定申告合宿です。

1泊2日の集中講座の機会に、アーティスト、クリエイター、アートプロジェクトスタッフに必要な確定申告の正しい知識をゼロから楽しく身に付け、実際に申告書を作成しましょう。

日 時	2011年2月19日(土) - 20日(日) 1泊2日 (予定)	
1日目	午前	集合 講義「確定申告とは」
	午後	ワークショップ「申告書を書いてみよう1」
	夜	交流会
2日目	午前	ワークショップ「申告書を書いてみよう2」
	午後	講義「お金と領収書の管理のコツ」 解散
会 場	都内宿泊施設	
定 員	20名程度	
受 講 料	10,000円程度で実施予定	

※集中合宿セミナー1・2に関する詳細・最新情報はウェブサイトにてご確認ください。

Tokyo Art Research Lab <http://www.bh-project.jp/artpoint/app/lab.html>

# 日本型アートプロジェクトの 歴史と現在 1990-2010

現在、アートプロジェクトの企画運営にかかわっていて、自分のプロジェクトの特徴や位置づけを確認したいと思っている方々や、卒論・修論・博論などでアートプロジェクトを研究対象としている学生や研究者のみなさんと一緒に、日本のアートプロジェクトの歴史や変遷を調査し、類型的分析を試みたいと思っています。

アートプロジェクトを始めた人たちはさまざまですが、アーティスト型、キュレーター型、市民運営型、それぞれに特徴的な傾向はあるのでしょうか？また、フェスティバル型のアウトプットを重視した時代から、実社会におけるサステイナブルな波及効果（アウトカム）を最初から目標にした形ものが増えていますが、最終的に地域社会にアートはどのような変化（インパクト）をもたらすことができるのでしょうか。

さらに、行政や美術館、大学などの機関はどのような役割を果たしているのでしょうか？成功談だけでなく、失敗や挫折、課題などを浮き彫りにして、参加者のみなさんがプロジェクト実施のヒントを抽出し、活動を充実させる契機になれば幸いです。

気軽に公開講座だけ聞きに来るもよし、積極的に調査分析に関わって行くもよし。参加の仕方はみなさん次第です。

熊倉純子 くまくら すみこ / 東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科教授

バリ第十大学、慶應義塾大学卒業。1992年から2002年まで(社)企業メセナ協議会に勤務。企業のメセナ活動や芸術普及プログラムなどの研究・開発に携わる。専門は文化環境論(文化支援)、アートマネジメント。2002年4月より東京芸術大学に新設された音楽環境創造科で社会と芸術を結ぶ人材を養成する。著書に「社会とアートのえんむすび 1996-2000 一つなぎ手たちの実践」(共編。ドキュメント 2000 プロジェクト実行委員会発行、トランスアート)。



## 講座内容

日本各地でさまざまな形で開催され進化してきたアートプロジェクトの変遷を概観し、いくつかの方向性を抽出しつつそれぞれの目的や開催形態、社会との相互作用について分析を試みます。基本的に、毎回2つのプロジェクトから主催者をゲストにお招きし、ディスカッション形式で沿革を伺いつつ重要なポイントを掘り下げて、比較分析をおこなう予定です。扱う年代は主に1990年以降とし、代表的な大型プロジェクトから昨今登場した新たな形態の活動まで、アートプロジェクトの多彩な展開を網羅できればと考えています。

- ▶ **1. 大型フェスティバルが過疎地を変える**  
国際的な展覧会をおこなうことによって  
限界集落にながら起こるのか。
- ▶ **2. 美術館がまちに仕掛けるアートプロジェクト**  
美術館内では実現しなかった企画を  
まちなかで展開。その意義と成果は？
- ▶ **3. 作品とまちづくりの逆転**  
アート作品そのものより、プロジェクトの  
仕掛け方のほうが重要な場合もある？
- ▶ **4. 大学はアートプロジェクトを通じて、  
どのような人材を育てるのか**  
現場体験型の教育と、地域文化拠点  
としての大学の役割とは？
- ▶ **5. 持続可能なスキームに向けて、  
新たな傾向の登場**  
自転車操業にならない安定した  
プロジェクト運営に必要なものはなにか。
- ▶ **6. 格差社会とアートプロジェクト**  
表現活動は、社会問題にどのように  
絡んでゆくことが可能なのか。
- ▶ **7-8. 未定**

熊倉純子ゼミ公開講座「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990-2010」は、年度末に出版を予定している書籍の制作プロセスの一環として開講します。

日本における過去20年間のアートプロジェクト活動を検証・分析した情報を一冊にまとめます。全8回の公開講座で繰り広げられる各ゲスト講師のディスカッションと分析は、毎回その本の一章として編纂されていきます。公開講座自体は2時間を予定していますが、ゲストとのディスカッションを講座後も続けていくことで、じっくり時間をかけてなるべく多くの比較研究の素材を提供していただく予定です。なお、参加者の中からディスカッションの文字起こしや本制作の素材集めなどお手伝いください方を募集します。講座の初回にて案内を行いますので、興味のある方はぜひご参加ください。

ゼミ日 2010年7月 - 2011年3月 金曜日 14:00 - 16:00

7/2, 9/3, 10/1, 11/5, 12/3, 1/7, 2/4, 3/4

定員 30名程度

受講料 無料(全8回) ※事前申込制。受講者は、原則として全講座への参加を必須とします。



## 世界の現場から Talk & Cast

アーティストやアートマネージャーをゲストに招き、海外でのさまざまなアートプロジェクトの現場体験を紹介。世界の様々な社会状況やアートプロジェクトの最新事例を知るプログラムです。トークの様子は音声にて公開収録、インターネット上でポッドキャスト配信されます。

ゲスト：浅井裕介、西尾美也、wah、大巻伸嗣ほか(予定)



## トークシリーズ 東京を考える、語る

美術家・川俣正監修による、東京の現状と可能性を考えるトークシリーズ。各回異なる専門家をゲスト講師として招き、川俣正との対談の中で、東京に対するさまざまな視点を見出ししていきます。

昨年度は、各研究分野の第一線で活躍している6人の専門家(今福龍太、桂英史、隈研吾、高山明、羽藤英二、吉見俊哉)を迎えて即興的な対談をおこないました。

今年度も引き続き「東京」という場に潜む多様なテーマを採掘し、新しいイメージの構築に挑んでいきます。

\* 公開講座 1・2、秋集中ゼミに関する詳細・最新情報はウェブサイトにてご確認ください。

Tokyo Art Research Lab <http://www.bh-project.jp/artpoint/app/lab.html>

## Tokyo Art School 2010

「脱・東京化計画」というコンセプトのもと「ライフ」「サウンド」「ゲーム」という3つのテーマで展開していくレクチャーシリーズです。アーティストや建築家、音楽家、研究者などと一緒に「東京」の新しい可能性を探ります。

「東京」ライフ：人やモノ、情報、アイデアが渦巻く東京で「自分の場」をつくるには？人と人とのつながりを広げていくのに良い方法は？東京でよりよく生きるためのヒントを探ります。

「東京」サウンド：音をキーワードに東京を眺めると、そこにはどのようなまちの姿が現れるでしょうか。形がない音だからこそ可能になるまちへの働きかけと文化発信のあり方について考えます。

「東京」ゲーム：アーティストやデザイナーなどどのように東京を読み解いているのでしょうか。都市空間の営みに埋もれている創造の種を見つけ、それらを芽吹かせる方法について考えます。

毎回2名のゲスト講師により繰り広げられるクロストーク形式のレクチャーをととして「東京」に関する専門的でユニークな知識や見方を身につけ、それに続くセミナーにおいて、レクチャーで挙げられた論点や見解を分析します。また、レクチャーシリーズ最終回では、受講者が、それらを発展させて具体的にまちに働きかける可能性について発表します。東京の新たな姿について広く深く思考を巡らせながら、いきいきとしたまちづくりのきっかけを探ります。

### NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]

NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] は、キュレーターやアート・オーガナイザー 6 名が、現代アートと視覚文化を考えるための場作りを目的として、2002 年に設立した NPO 団体です。個人や企業、財団あるいは行政と連携しながら、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝え、それらの背景にある文化について話し合う場を、さまざまなプログラムをととして創り出してゆきます。



集中講座 2010年9月 - 11月

定員 30名程度

受講料 一般 10,000円 / 学生・AITメンバー 7,000円  
全7回 (レクチャー+セミナー 6回 / プレゼンテーション 1回)

\* 事前申込制。受講者は、原則として全セッションへの参加を必須とします。

# Tokyo Art Research Lab 受講までの流れ

申し込み受付開始 2010年5月24日(月)

## 1 連続ゼミ

- ・小川希 アートプロジェクトの0123
- ・帆足亜紀 プロジェクト運営360度
- ・小崎哲哉 【「見巧者」になるために】批評家・レビュワー養成講座
- ・若林朋子 アートプロジェクトを評価するために～評価の「なぜ?」を徹底説明
- ・アート&ソサイエティ アート活動としてのアーカイブ

※複数講座申込可

申し込み書類を準備 折り込みの「申し込み書」を切り取り、必要事項をご記入ください。



受講を希望する講座の課題（各講座ページに記載）  
を作成してください。用紙はA4サイズを使用し、  
各ページにゼミ名・氏名をご明記ください。



申し込み書類を送る 「申し込み書」を一番上にして  
課題とともに封入の上、下記の住所へ書類を郵送してください。

公益財団法人東京都歴史文化財団  
東京文化発信プロジェクト室 Tokyo Art Research Lab 係  
〒130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5階

応募締切 2010年6月18日(金)午前必着



書類審査 Tokyo Art Research Lab 事務局と各コーディネーターにより  
ご提出いただいた書類をもとに受講者を選考します。



選考結果通知書送付 選考不選考に関わらず、6月21日の週末までは  
全申し込み者に郵送にて結果を通知します。



受講料入金 選考された方には、結果通知とともに  
受講料のお支払い方法を含め受講に関する  
詳細をお知らせします。



申し込み完了 Tokyo Artpoint Project Room 302  
(アーツ千代田 3331内)でお待ちしております。

## 2 公開講座

- ・秋集中講座 Tokyo Art School 2010 ※申込受付開始7月中旬

オンラインで申し込む 申し込みフォームに必要事項をご記入ください。  
<http://www.bh-project.jp/artpoint/app/lab.html>



受講料入金 申し込み受け付け後、受講料のお支払い方法を含め  
受講に関する詳細をメールにてお知らせします。



申し込み完了 Tokyo Artpoint Project Room 302  
(アーツ千代田 3331内)でお待ちしております。

- ・熊倉純子ゼミ公開講座 日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990-2010
- ・公開講座1 世界の現場からTalk&Cast
- ・公開講座2 トークシリーズ 東京を考える、語る

※オンラインにて随時受付開始予定(申し込み不要の講座もあります)

オンラインで申し込む 申し込みフォームに必要事項をご記入ください。  
<http://www.bh-project.jp/artpoint/app/lab.html>



申し込み完了 Tokyo Artpoint Project Room 302  
(アーツ千代田 3331内)でお待ちしております。

受講に関するお問い合わせは  
東京文化発信プロジェクト室 Tokyo Art Research Lab 事務局  
TEL.03-5638-8803 (石田・坂本)まで

# 2010年度 Tokyo Art Research Lab スケジュール

※ゼミ・講座日はやむをえず変更する場合があります。

月	火	水	木	金	土	日
<b>6</b>	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
	28	29	30 見巧者			

<b>7</b>			1 0123	2 歴史と現在	3	4
	5	6	7 360°	8	9	10
	12	13 評価	14	15 0123	16	17
	19	20	21 見巧者	22	23	24 アーカイブ
	26	27	28	29 0123	30	31

<b>8</b>						1
	2	3 評価	4	5 0123	6	7
	9	10	11	12	13	14
	16	17	18	19 アーカイブ	20	21
	23	24	25 360°	26 0123	27	28
	30	31				

<b>9</b>		1	2 0123	3 歴史と現在	4	5
	6	7	8	9 アーカイブ	10	11
	13	14 評価	15 360°	16 0123	17	18
	20	21	22 見巧者	23	24	25
	27	28	29	30 0123		

<b>10</b>				1 歴史と現在	2	3
	4	5	6 360°	7 アーカイブ	8	9
	11	12 評価	13	14 0123	15	16
	18	19	20 見巧者	21	22	23
	25	26	27	28 0123	29	30

月	火	水	木	金	土	日
<b>11</b>	1	2	3	4 0123	5 歴史と現在	6
	8	9	10 360°	11 アーカイブ	12	13
	15	16 評価	17	18 0123	19	20
	22	23	24 見巧者	25	26	27
	29	30				

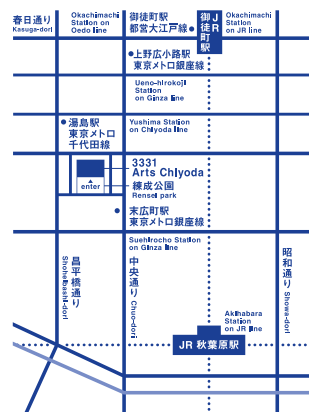
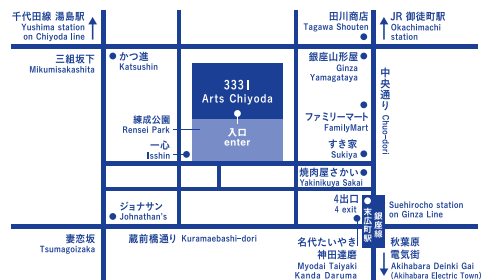
<b>12</b>			1	2 0123	3 歴史と現在	4
	6	7	8 360°	9	10	11
	13	14 評価	15	16 0123	17	18
	20	21	22 見巧者	23	24	25
	27	28	29	30	31	

<b>1</b>					1	2
	3	4	5	6	7 歴史と現在	8
	10	11 評価	12	13 0123	14	15
	17	18	19 見巧者	20	21	22
	24	25	26	27 0123	28	29
	31					

<b>2</b>		1	2	3 0123	4 歴史と現在	5
	7	8	9 360°	10	11	12
	14	15 評価	16	17 0123	18	19
	21	22	23 見巧者	24	25	26
	28					

<b>3</b>		1	2	3 0123	4 歴史と現在	5
	7	8	9 360°	10 0123	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
	28	29	30	31		

## Tokyo Art Research Lab 会場



Tokyo Artpoint Project Room 302

(アーツ千代田 3331 内)

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14

TEL: 03-6803-2441 <http://www.3331.jp/>

## Tokyo Art Research Lab 各種お問い合わせ

### 総合窓口

東京文化発信プロジェクト室 Tokyo Art Research Lab 事務局 (石田・坂本)

TEL: 03-5638-8803 Email: [info-ap@bh-project.jp](mailto:info-ap@bh-project.jp)

### 各講座窓口

小川希ゼミ／帆足亜紀ゼミ／小崎哲哉ゼミ／熊倉純子ゼミ公開講座

世界の現場から Talk&Cast / 東京を考える、語る

東京文化発信プロジェクト室 Tokyo Art Research Lab 事務局 (石田・坂本)

TEL: 03-5638-8803 Email: [info-ap@bh-project.jp](mailto:info-ap@bh-project.jp)

### 若林朋子ゼミ

社団法人企業メセナ協議会

TEL: 03-3213-3397 Email: [mecenat@mecenat.or.jp](mailto:mecenat@mecenat.or.jp)

### P+Archive ゼミ

NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター

TEL: 090-7719-9972 Email: [info@art-society.com](mailto:info@art-society.com)

### Arts and Law 集中合宿セミナー

NPO 法人コミュニティデザイン協議会 / Arts and Law

TEL (常時留守電): 050-5534-5043 Email: [contact@arts-law.org](mailto:contact@arts-law.org)

### Tokyo Art School 2010

NPO 法人アーツユニシアティヴトウキョウ [AIT/ エイト]

TEL: 03-5489-7277 Email: [office@ai-t.net](mailto:office@ai-t.net)

---

公益財団法人東京都歴史文化財団

東京文化発信プロジェクト室 ©2010

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-19-5 シュタム両国 5 階

TEL : 03-5638-8800 FAX: 03-5638-8811

Email: [info-ap@bh-project.jp](mailto:info-ap@bh-project.jp) URL: <http://www.bh-project.jp>